

● なまけもの ●

なまけものは なまけもの
 仕事はしないし貯金なんかない
 だから遊びもしないし贅沢もできない
 だから家族もすてた ひとりもの
 だけれど役所のせわにならないで
 貧しく生きている

なまけものは もちろんアリではない
 けれど

けっしてキリギリスでもない
 なまけものは女王のために働くことは

ないし
 社会防衛のためだと言って戦争なんか
 しない

なまけものは夏に音楽をかなで遊びま
 わったりしない

冬が来たからと言って他人に助けを求
 めない

なまけものは他人のイヤがるところに
 住んで

他人の食べないものを食べ

あとはひたすら じっとしているだけ
 ムダな筋肉はそぎとり

ふるえることさえできない
 敵がきたとしても

ひたすら死んだマネをするだけ

なまけものは なまけもの
 いつまでたっても なまけもの

雨の多い誰も住まないところに住んで
 ひたすら葉っぱを食べている

なまけものは なまけもの
 決してコアラにはなれません

● 凍 死 ●

センターのたき火の周りで
 また仲間が凍死した

酒を飲んで体がホカホカして良い気分
 手足の先の血管は開ききる

彼は酔払いながら寝込んでしまった
 酒がぬけても毛細血管は開きはなして

まるで手足の先は熱交換器
 どんどん体温は奪われて

内臓から冷えきってしまう
 そうして彼は

あの世とやらへ行ってしまった

今晚もセンターのたき火の周りでは
 いつものように宴会が始まっている

● カ ラ ッ ケ ツ ●

いつもサイフはカラッケツ
 貯金なんてありはしない

三日続けて働いて
 四日休んでカラッケツ

いつもアップアップ
 部屋代はらって

メシを食べて
 金がなくなりや仕事に行って

金ができれば くすぶって

いつもサイフはカラッケツ



第22回釜ヶ崎越冬闘争

報告集

第22回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会
 大阪市西成区萩之茶屋2-5-23 釜ヶ崎解放会館2階
 06-632-4273

目次

	[ページ]
☆ 経過報告・・・	2～6
☆ 各班総括案報告	7
<情宣班>	8～12
<炊事班>	13
<資材班>	14～19
<警備班>	20～21
<医療パトロール>	22～26
<文化・体育班>	27～34
<臨時宿泊闘争>	35～41
<医療班>	42～44
<人民パトロール>	45～74
☆ 日刊えっとう・・・	75～77
☆ 仲間からの声 [華蓮]・・・	78～80
[桂子]・・・	81～83
☆ 協友会の仲間から [本田哲郎]・・・	84～85
☆ 連帯会議・・・	86
☆ 釜ヶ崎解放ピラ・・・	87
対市糾弾ピラ・・・	88
救対ピラ・・・	88
越冬闘争カンパピラ・・・	89
野宿している仲間のみなさんへピラ・・・	90～91
☆ 釜ヶ崎越冬小史'89-'90・・・	92
☆ 会計報告・・・	

【経過報告】

- ☆ 招請状・・・「第22回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会結成の呼び掛け文!!」釜日労より発送・・・(郵便・手渡し)

《準備期間→会議》

- ◎ (一回目) 1991-11/19 司会者選出・議事録担当・会計選出・監査選出・各班紹介
- ◎ (二回目) 11/26 事務局体制・支援連帯集会・各班体制・会計
- ◎ (三回目) 12/03 各班スタッフ紹介・集会基調・財政体制
- ◎ (四回目) 12/10 集会基調・プログラム・炊事体制・支援部屋・編集委員体制
- ◎ (五回目) 12/17 臨沓闘争・炊事場問題・編集委員選出・日常活動提案
- ◎ (六回目) 12/24 突入集会・事務局体制・行動予定・準備要請

《準備期間→活動》

- 1991-11/27 越冬闘争学習会・集会→西成市民館 Pm6:30~9:00
- 11/30 カンパ活動(労働福祉センター) ¥523.543円
- 12/1 " " 2日目 ¥374.317円
- 12/14 支援連帯集会→総合福祉センター Pm6:30~8:30
- 12/18 越冬闘争学習会・集会第二回目→西成市民館 Pm6:30~9:00
- 12/24 「日刊えっとう」準備号・布団小屋設営・布団搬入・各班準備作業・・・

《前半期→12/25-28》

- 1991-12/25 Pm6:30→越冬突入集会→救対ビラ配布→炊き出し→Pm9:00→ワッショイデモ→布団敷き→Pm10:00→医療パトロール→集約→夜警
- 12/26 Am4:30→起床布団上げ→「日刊えっとう」情宣
Am8:00→医療相談→(労働相談)医療券発行→医療センター→市立更生相談所引率→集約(炊事班は警備・医療・学生・支援に弁当作り)
Pm8:00→布団敷きPm10:00→医療パトロール→集約→夜警→翌朝布団上げ
☆ カンパ活動(全港湾) ¥147.783円
- 12/27 26日と同じ活動(情宣班→医療班→炊事班→警備班→医療パト班)
- 12/28 同上と同じ活動
☆ 臨時宿泊への呼び掛け活動。ピラ、弁当をもって日本橋方面→四天王寺境内→天王寺駅方面も同時に回った。

《集中期→12/29-1/4》

- 12/29 ☆ 臨沓押し込み闘争 Am5:00~Pm4:00頃 労働福祉センター→市更相へ(布団上げ→情宣→臨沓への呼び掛け→引率→聞き取り調査→押し込み闘争)
- ☆ 殺人行政科弾対市抗議集会(三角公園)
- ☆ 炊事班(三角公園)炊き出しテント小屋24時間体制
- ☆ 資材班(三角公園)焚火体制(12/29-1/3運搬)

- ☆ 人民パトロール(三角公園~釜ヶ崎地区内)

布団敷き・医療パトロール→Pm9:00以降(集中期間継続)

- 12/30 29日と同じ活動
☆ 臨沓押し込み闘争
☆ 越冬中間報告集会(三角公園)
☆ 人民パトロール(三角公園~天王寺地下・JR中央コンコース)
- 12/31 布団上げ→情宣「日刊えっとう」ピラまきは労働福祉センターが閉まるためAm6:00~又市更相も閉まるため医療相談活動も若干異なる。(1/3まで)
☆ おおみそか年忘れノド自慢大会(三角公園)
☆ 若者ライブ「生活サーカス団」
☆ 人民パトロール(三角公園~難波コース)
- 1992 1/1 ☆ 新春越冬祭り(三角公園)
◇ (朝)→衣類放出(昼)→スポーツ・卓球大会→釜ヶ崎ウォークラリー
(夜)ライブ[けんぞう、仙石、ポップコーン、フーの会、生活サーカス団]
☆ 人民パトロール(三角公園~日本橋~通天閣コース)
- 1/2 ☆ 新春団結もちつき大会(三角公園)
◇ (朝)→もちつき→[だいなしライブ]
(夜)→ライブコンサート[ふくろく、生活サーカス団]
☆ 人民パトロール(三角公園~梅田地下・阪急街・JR大阪駅コース)
- 1/3 ☆ 新春スポーツ大会・越冬コンサート
◇ (昼)→ペーパースポーツ→ライブ[みずほ]
◇ (夜)→[みずほ、新谷のり子、新井英一]ジョイントコンサート
☆ 人民パトロール(三角公園~釜ヶ崎地区内)
- 1/4 ☆ 殺人行政科弾対市抗議デモ
◇ 労働福祉センター→三角公園→(堺筋経由)→大阪市府
◇ 集中体制解除→三角公園撤収→医療センター前(布団小屋)集中Pm8:00→布団敷き→炊き出し→Pm10:00→医療パトロール→集約→夜警

《後半期→1/5-1/8》

- 1/5 Am4:30→布団上げ→「日刊えっとう」ピラまき情宣(医療センター休み)
◇ 医療班→面会活動・病院訪問
Pm8:00→4日の夜と同じ活動
- 1/6 普段の日常活動と同じ(12/26参照)
- 1/7 同上と同じ日常活動
☆ ブッシュ米販反対抗議デモ
◇ 労働福祉センター→三角公園→(日本橋→千日前→難波)
☆ 医療パトロールにて→弁当配布と越冬闘争撤収報告する。
- 1/8 Am8:00→医療相談
☆ 越冬闘争貫徹→布団小屋撤収
◇ 打ち上げ(きじむなあ)

【総括期間→会議】

☆ 毎週火曜日（ふるさとの家 → Pm7:00~9:00）

☆ 越冬実→編集委員会へと移行

- ◎ (一回目) 1992-1/14 議事進行提案・活動報告(資料) 医療相談・医療パトロール
- ◎ (二回目) -1/21 前回の報告・情宣班レジメ1枚・炊事班3枚
- ◎ (三回目) -1/28 前回の報告・警備班レジメ5枚・資材班1枚

☆ (情宣班)

- ※ 各班の活動が垣間見ることが出来ました。
- ※ 学生実のメンバーに印刷を手伝って下さいと頼んでみましたが応えてくれなかった。など上げながら情宣班の体制強化はされなかった。
- ※ 各班の動きを見て行きますと、やはり医療班がすごく問題があったように映る。去年との違いから見えてしまうのかもしれないが、まったく横との連携、つながりをもとめとしないし、臨海闘争についても積極性が無かった。医療パトにしる、朝の引き継ぎにしる、夜中の集約に出来ない、自分のとこさえ担っていたらいいと言った意見が、全体的に確認された感じ、だけど医療班のメンバーがいなかったこともあって一方的にながれ医療班の総括のとき触れることになる。
- ※ 情宣班の総括は抽象的なので具体的に自らの位置にたいして掘り下げ提起してもらいたい。
- ※ 医療班=医療連という形で同じように見るのはいけないけれど専門分野として位置付けてきた今日の実行委体制が問題なのかそもそも実行委の役割分担そのものが確認されていないこと事態はつきりしない、どちらにしても小手先で動いてしまう越冬実の問題があるのは事実です。

☆ (炊事班)

- ※ 去年の総括を踏まえてか、結局警備班に対する不信感での論議になり炊事班の仕事と言うのか役割について全体的に話されないまま時間が来て終わる。
- ※ 炊事班の総括なのか、警備班の総括なのかまとまらないままやり取りが続く。
- ※ 警備班からの反応の中に、労働者を組織して動いているのは警備班だけである。他の各班体制では労働者を組織していない、そこら辺で警備班だけ問題として言われるのは納得出来ない。
- ※ どこに問題があるのか？受け取り方が違うのか論議がかみ合っていない。

- ◎ (四回目) -2/4 前回の報告・医療パトレジメ2枚・文体育班レジメ5枚

☆ (資材班)

- ※ 全体で取り組む仕事とは映りにくいのか、資材班に対する協力者が少なく確保されにくい、そのため資材班のスタッフにとりわけ運転手に負担をかける。
- ※ 集積場所の確保が12月25日以降となり朝から夜までトラックの中→一日仕事に

なるケースが出て来たようにますます好まざる班に映る。

- ※ 現場サイドで寒ければ仲間連自身で集めにいくようにすべきか・・・
- ※ 何でもかんでも揃える事自体考え直す必要があるのでは・・・
- ※ 越冬実(資材班)まきを集める人、仲間連は火に暖まる人というように別れてしまうのも考えもの全体に返らない・・・
- ※ 様々な意見は出ましたが、まだまだ一部の声に止まってしまい全体に波及しない班としてしか見えない、悔れない人は黙るのでしょうか？

☆ (警備班)

- ※ 数字を並べることが多く何を伝えようとしているのかが分かりにくいといった意見があったように一緒に闘った仲間の声の欲しかった。
- ※ そして当該と支援との違いを数字によって語ろうとするものだからそこで闘っている仲間が何を感ず何を獲得しようと頑張っているのか見えてこない、去年と今年の総数がどうのでは仲間との関係性からも発展がつかめない。
- ※ 炊事班からの指摘にしても触れられていない点でいけんが上がる。
- ※ 組合の越冬闘争期間が、山谷闘争決起集会への結果でもって終結する方針だから仲間を組織する上で一番効果的な警備班に力を注ぐ考え方に、他の班との摩擦が生じている。
- ※ 専門分野的に全体が流されている越冬実総体なので、見直す必要がある。自分の仕事をきっちりやり切る事はいいけれども、自分の仕事をさえておけば良い、と言った考えで動いているので一人一人全体の動きが見えて来ない実情をかえねばならない。
- ※ 個々の仲間は頑張っているけれど全体に共有化されないのは何になのかを問う必要がある。良い意味も悪い意味も含め自分と言う人間を守ろうとするこだわりがある。個人の利害関係に発せられる事なのか、思想や価値観の違いなのか、今まで築かれてきた越冬闘争のおさらいが、そして現在の位置足元を共有する時間が求められる。
- ※ 論議が共有化されない、各班を担っている仲間の立っている位置が違うように越冬実から見た各班も又違う。前向き意見が出て来ない所に人間不信に全体が陥っている

- ◎ (五回目) -2/11 前回の報告・臨海闘争・人パトレジメ2枚・医療班7枚

☆ (医療パトロール)

- ※ 1月3日スタッフがそろわず、弁当もっての全域パトロールが取り組めなかった
- ※ 2~3回、人民パトロールが遅れて、医療パトに支障とまでいかないがメンバーが少なく回り切れなかった。何が優先するのか、と言った点から見ても対等性に欠ける。
- ※ 上記の課題の解消になるかわ別、集中期の医療パトロールの出発地を三角公園にしてはどうか！・・・この意見も人民パトロールの優先的位置にたつての提案に聞こえる。・・・各班体制の活動にもっと配慮する必要がある。

☆ (文化・体育班)

- ※ 出演する歌い手さん・バンド演奏の仲間たちとの関係性について積極的に働き掛け関係性を築き協力を願う。
- ※ 金銭面について理解を求め、釜での関係の在り方を深める。
- ※ 三角公園で何をやるにしても、公園の中に実行委のメンバーが常駐していることは、何かにつけて段取りが良くうまく流れる。

☆ (臨時闘争について・・・)

- 1) 医療連より臨時闘争の取り組みについて去年並に出来ないし、スタッフも少なく全体で取り組んでもらいたいと準備段階から提起される。
- 1) 大阪市民生局へ提出する抗議文など医療連まかせになっていた問題がここはきて実行委体制の無力化、各班主導の連合体。もう少し各班活動の位置など役割分担への確認、協力体制が欠かせない。
- 1) 各班強化よりも一日一日の活動体制に強化が問われる。
- 1) 抗議文についても全体 越冬実で作成し方針を固める。
- 1) 去年の総括がそのまま臨時闘争の方針には当てはまらないように、今回のアプレ地獄の状況下にあった方向性を打ちださなアカン。
- 1) 12月29・30日が来たから臨時闘争を闘いぬくのではなく、年間通じた取組が問われる。

◎ (六回目) -2/18 前回の報告・臨時闘争・会計報告・事務局体制・支援、学生

☆ [医療班]

- ※ 前回までの各班報告の会議の中で医療班に対する批判や意見など、他の班との絡みで多く出されていたが、それらについてレジメで触れられていない、全体との関係性からどうであったのか問うてほしい。
- ※ 医療連と医療班との違いがあるのならある、無いのなら無いといった立場を互いに確認しあいたい。そうでないと医療連と越冬実との関係が明らかにされない。(全体の問題に広がるけれど) 越冬闘争の位置におかれている医療連の責任分野は越冬終了後年間通じた闘いに引き継がれるものだけに積極的に問われる。

☆ [人民パトロール]

- ※ レジメの中のII総括点③に触れられた文章全面撤回すべき指摘がなされた。
- ※ 総括案提起者いわく人民パトロールの総括であるからして、全体的に捉ては困る。あくまで私個人の評価である。
- ※ 討論白熱中時間切れで次回持ち越すが、再度論議出来ず!

◎ (七回目) -2/25 前回の報告・総括会議の評価→編集委員会議について

◎ (八回以降) -3/3 編集委員会会議→パンフが作成出来るまで!

情 宣 班 総 括

今回初めて情宣班をやり色々まどうことがあった。明日まくピラを毎日日々書いているうちに、今日のピラと錯覚してしまい、当日にあったピラにならなかったものもあつたように思う。

とに角、一応毎日出すことはできたが、毎日事務所にいるため、労働相談や他の事務所活動と重なり、けっこう忙しかった。又越冬全体の問題点も見えてきたことがあるので述べたい。

まず一点、ピラ作りは労働者ではなかなか手伝うことができず、学生に依頼をすると、「今回は各自がやりたいことをやる」ので、呼びかけはするが来てくれるかどうかはわからないという返事だった。

又、支援だけに限らず、各班の取り組み方にも問題があった。とくに医療班については極端だったようだ(弁当カンパも集まっていない)。(臨泊、警備の引き継ぎ、仕事を限る……)

今回の越冬は実行委の主体性をと言われながら、それが悪いほうに向かっているのではないかと思われる。越冬は各班が協力しあって全体的に取り組めるのであって、自分が好きな、やりたい所だけやって越冬斗争をやれるわけではない。各支援が、各班が越冬全体を見ながら、それぞれの任務をきちっとこなしていくようにしないと、それがどこかにしわよせとなってくるのだ。

越冬の支援のあり方、当該労働組合も含めて、誰のために、何のために、それぞれが何をやろうとしているのかをはっきりさせていく必要があると思う。

やる気のある人は、個人でもそれなりにきちんと越冬に取り組んでいると思う。

事務所にいるとけっこう全体が見えてきて、それなりの苦労やストレスがたまつた。資材や警備などと比べたら肉体的にも楽なように見えたが、年のせいもあると思うが、けっこうしんどかった。来年もやれるのだろうか。いつまで続けてやれるのだろうか、そんなことが心配になってくるのだ。

【炊事班】

(炊き出し・弁当・おにぎり・丼・他等など) NO1

月	日	医療班	警備班	医療バト	資材・情宣班	学生・支援
12	25		弁30			弁当 20
	26	弁30	30		弁当 2	9
	27	30	25		9	7
	28	30	25	弁250	8	2
	29	30	15		8	0
			15			
	30	30	15		5	0
			15			
	31	50	15		5	0
			4			
1	1	30	15		5	0
			15			
	2	30	15		5	7
			15			
	3	30	10		5	9
	4	30	20		0	3
	5	0	20		0	5
	6	30	15		0	7
	7	40	20	250	0	5
	8	30				
集計		420	349	500	52	74
		医療班	警備班	医療バト	資材・情宣班	学生・支援

【炊事班】

(炊き出し・弁当・おにぎり・丼・他等など) No2

諸行 動	集 申 期 (三角公園)	集 計
突入集会 (三角公園) そうめん汁→	150	200
		71
		71
☆緊急炊き出し (医療センター前) 野菜汁→	100	415
☆臨泊闘争 (弁当20)	Pm9:30 味噌味野菜汁→270	
☆殺人行政科弾集会	おにぎり→300	357
☆臨泊闘争 (弁当20)	Am2:00 塩味野菜汁→55	
☆越冬闘争中間報告集会	" 6:00 塩味野菜汁→127	
	Pm5:30 味噌味野菜汁→218	
	" 9:30 カレー丼→250	735
☆越冬祭り	Am6:30 塩味ぞうすい→198	
◆年忘れノド自慢大会	Pm5:30 親子丼→351	
	" 9:30 年越しそば→350	973
☆新春祭り	Am6:00 塩味ぞうすい→246	
◆衣類放出	Pm1:00 粕汁→488	
◆卓球	" 6:00 味噌味ぞうすい→436	
◆ライブ	" 9:30 カレー汁丼→272	1467
☆団結もちつき大会	Am6:00 塩味ぞうすい→247	
◆もち米100俵	Pm1:00 ぜんざい・ぞう煮→810	
◆ライブ	" 6:00 ぞう煮→663	
	" 9:30 おでん丼→650	2443
☆新春祭り	Am6:00 味噌味ぞうすい→325	
◆ハンドソフトボール	Pm1:00 カレー丼→550	
◆コンサート	" 6:00 粕汁・おにぎり→740	
	" 9:30 他人丼→400	2084
☆対市お礼参り	Am6:00 塩味ぞうすい→270	
	*10:00 おにぎりシャケ入り→200	
	Pm1:00 他人丼・そば汁→300	
◆三角公園撤収片付け用弁当→	25	
◆医療センター前→Pm8:00	カレー丼→190	1038
◆医療センター前→Pm8:00	てんぷら丼→218	243
◆医療センター前→Pm8:00	豚汁とおにぎり→212	264
☆ブッシュ来阪反対抗議デモ→Am8:00	おにぎり→200	
" " " "	→昼食弁当→100	
◆医療センター前→Pm8:00	牛丼→288	
" " " "	" 8:00 焼きもち・りんご・みかん配布	903
☆布団小屋撤収片付け用弁当→	25、◇打ち上げ (きじむなあ)	55
1548	8716	↓11320
諸行 動	集 申 期 (三角公園)	>11659
		集 計

【炊事班総括】

- ① 越冬闘争突入寸前の12/22に木原マンションでの炊事活動がようやく決まった。資材の搬入、釜の設置などが23日より始まった。
- ② 12/29に木原の家主の警告と指摘でプロパン用炊飯器三基ヲ三角公園にうつし、木原では備え付けの都市ガス用の炊飯器と電気釜四基で、弁当、おにぎり等に限られながら続けることになった。
- ③ 12/29夕方より、三角公園に仮小屋を建て、プロパン用釜据え1/7まで公園・医療センター前（有り小屋）の二箇所炊事班活動と言うことになった。
- ④ （活動の時間帯）公園・医療センター前・木原での活動は朝早くから夜中までの変則的な活動であり屋外の寒さに比べれば“少しは楽”かもしれないが一日がものすごく長い。公園では朝・昼・夕方・夜食言うハードなスケジュール、木原では朝・昼・夕方・夜食、あとシコミである。
- ⑤ （公園・センター前）での活動
 - ☆ 12/29～1/3まで公園での113～114回の食事の提供。
 - ☆ 文化・体育班との連携による12/31～1/3までの各行事の協力と食事の提供。
 - ☆ 1/4～1/7までのセンター前での食事の提供。
 - ☆ 対市抗議デモ・対ブッシュ米販反対抗議デモの食事。
- ⑥ （木原）での活動
 - ☆ 医療班活動12/26～1/3の弁当作り・医療パトロール弁当（2回→500食）の提供。
 - ☆ 警備班・資材班・情宣班・学生、支援、当該の弁当作り。
 - ☆ 12/29～1/7までの公園・センター前の炊事提供。
 - ☆ 対市抗議デモ・対ブッシュ米販反対抗議デモ活動への弁当。
- ⑦ （第21回越冬闘争で出た問題点をどうのり越える事が出来たか）
 - ☆ 12/29より三角公園に本格的に釜を据える事が出来た。このことにより多くの仲間が腹一杯食べてもらえたと思う。又、ファストフード店や店屋物より安全で、体調に合わせた食事を提供出来たと思う。その中で雑炊→おにぎり→丼物→弁当→煮込み汁など工夫を重ねてやって来たと思う。炊事用具を備え付け、食事の提供をする“体制”不十分ながら一歩踏み込んできた。
 - ☆ 当該・支援とも「一食100円」の弁当が定着してきた（釜ヶ崎の中での外食も年末年始大半が休んでいるし栄養面での片寄りや“高い”を考え一食100円を出していた。）
 - ☆ 12/29～1/3の集中期には文化・体育班との協力が炊事用具を公園に備えたことでスムーズに行われ引き続き、1/7までセンター前での食事の提供をやり切ることが出来た。
- ⑧ （2年目の三角公園に於ける24時間体制の思い）
 - 1) 公園拠点化と掲げ7、8年になる。各班の体制も運動の在り方にも限界があったのか、共有性・関係性・責任性に貧しかったのか、結局論議されないまま流されてきた。そのような体制であった公園での活動は「集合 → 準備 → 活動 → 片付け → 撤収」のパターンでした。これではあかんと言う思いは誰にも感じてい

るが具体的な方針が打ち出せずいた。対権力・ヤクザ・シノギ・ゴロツキなどの緊張関係がありつつ運動の中に持ち込めず実行委員自らの公園での位置付けが打ち出せず結果各班思いの運動作りに余儀なくされて来たのが実態でした。

- 2) 3年前のモチつき大会でのあったことを伝えておきます。段取りが不十分で炊き方、突き方、などに時間が取られ目度たたないペースになり早く終わらせようとヤクザが介入し突き方に回るなど必死に絡んでは、「責任者は誰や！早く終わらせろ！お前の所の連中に2時に終わると言う約束でカンパした！・・・」と言うような事が起きた。思うに公園拠点化をうたう声が問われた。警備体制が敷かれてないままの状況で打つ手しかけた。
 - 3) なんとか打破する体制、武装をと考える中で去年幸にして90-12/29雨が降り、雨しのぎの即席テントが張られ、そのままテントを壊さず24時間体制が築かれた。一切の炊事用具が公園にセットされているので準備作業に手間取らず、又テント小屋には仲間が張り付いているため三角公園での催し、炊き出し、集会など予定どおり流れ出した。現場の中から力を蓄え一緒にやる、作る食べる関係が更に深まる事が出来た。
 - 4) 去年の教訓を生かし、炊事用具やカンパで届く米や野菜、また買い出しに必要な物がテントの中に収まるように大きめのテント小屋が建てられた。もちろん仲間が5・6人横になれる空間とズンドウが三ツ四ツ並べられるものでした。
 - 5) 今回は、アブレ地獄の何を物語る越冬と言うこともあって炊事班に与えられた任務として何が出来るのか、未熟ながら様々な工夫や挑戦に目覚め釜の設置を生かし井物など出せし、又米や野菜等のカンパがたくさん届いた（有り難う）ことで一日3～4回炊き出しを出すことも出来ました。
- ⑨ （今越冬闘争で出た炊事班としての問題点）
- ☆ 医療班・パトロール班の弁当と警備班・資材班等との弁当は本質的に異なっているので今後見直しが必要と思う。
 - ☆ 警備班の夕食問題・集中期は各班の食事は公園でみんなと共に食べるようになっていた。「協力してもらっている労働者が夕食を自炊する」・・・越冬財政でこれをやるのは昨年の二の舞になるので夕食は一食100円出すことで、やむを得ず作ったが、事前の実行委・昨年までの総括会議で指摘された警備班の食事その他の点ではなんら改善されることなく、ますます悪質になっている。警備班体制全体の見直しが必要。
 - ☆ 実行委のメンバーは「自弁」と言うことを忘れていないか。
 - ☆ 各班との相互の連携「今・どこで何を・誰と誰がしているのかとか、釜日労働事務所体制・支援の仲間への連絡」というような基本的な実行委の各班体制がみえてこなかったのではなかろうか。
 - ☆ 今越冬期間中“実行委”は何回開催され何が討論されたのか、なかったのであれば、越冬終了時全体の把握・確認がスムーズいったのかなどの全体への配慮をもっと考えるべきだ！

尚、12/29の件をすぐさま全体かできずに炊事班活動に来てくれた雑草舎の仲間・

学生支援の仲間・協友会の仲間へ申し訳ないと思っております。来期の体制はここ「三年來の総括点を共有」することからと考えております。

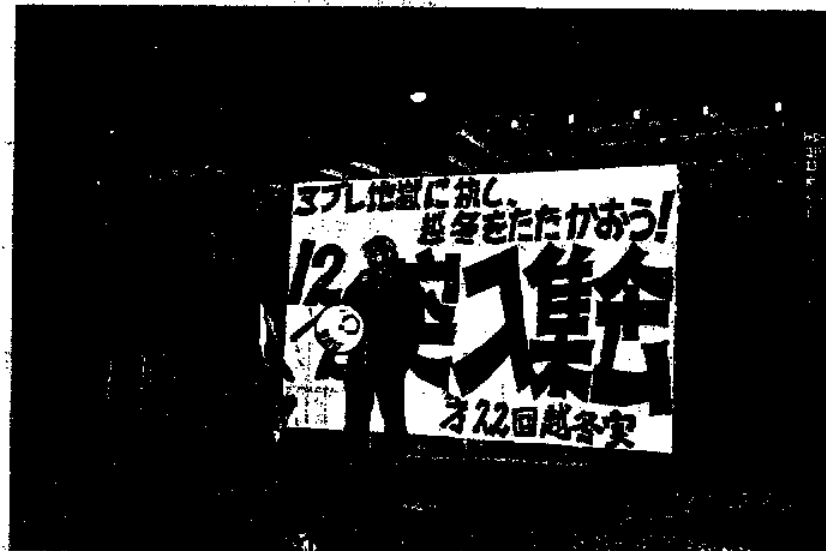
★ カンパ (米・野菜・魚・もち・果物・缶詰など) 報告!

◇ 米・・・・	池田さん	100 点
	つやこさん	100 点
	連帯労組	28 点
	旅路の里	150 点
	ふるさとの家	200 点
◇ ジャケ・・・・	樺さん	
貝類・・・・	トマさん	
◇ 野菜 (大根・白菜・ネギ・イモ・人参・ちんげんさい・やまいも他)		
湖南狭山を闘う会・・・・ (野菜)	(ダンボール・米袋)	40 点
四ッ葉・・・・ (野菜)		30 点
ユニオン東南・・・・ (豆腐・缶詰など)		10 点
ふるさとの家・・・・ (野菜)		75 点
〃 〃 〃 〃 〃 (もち・みかん・りんご)		20 点

※ 上記に記載出来ないカンパもたくさんありました。

※ 現場での受け渡し等でメモった紹介に限られ誠に申し分けありません。

以上・・・物質カンパがたくさんありました。その御陰で公園での炊き出しの充実が多くの仲間喜んで食べてもらえました。炊事班として仲間へ返す事が出来たこと実質1食100円余りの食事になるかと思います。本当に御協力有り難うございました。



【資材班】の一員の感想というか総括というか反省というか・・・

1) 場所が無い!

前回21回越冬の時に使わせてもらったたき木の集積場所は12月25日以降しか利用出来なかった。帰省ラッシュが始まっている25日から京都⇄大阪を往復するのは実にしんどい。12月10日頃に場所が確保出来ていれば、余裕をもってたき木集が出来ると、大型ゴミの日に布団を集める事も出来るのだが・・・

2) 運転手が少ない!

運搬用の車は確保出来ていたが、いざという時に運転手がいなかった。学生支援の人は免許証を持って来てほしいのだが・・・

3) もし資材班が警備班の様に部屋を借りて労働者と寝食を供にして、活動できれば、理想的だとは思っているのだが・・・

1992-1-20



警備班総括

1 活動報告

(4) 今回の警備班スタッフは、前段期で2名(昨年4名)と手薄であり、事前の計画性等十分意志統一を取れずに12/25以降の越冬警備に入っていた。警備班には、10月暴動地帯を打ち固め、バブル経済崩壊後の〈不況化の越冬〉局面で、労働者自らがアブレ地獄-「棄民化」=野垂れ死に攻撃と対決し、敵の越冬斗争への封殺の壁(宿泊施設、公園封鎖等)を突破していく事が問われ、

- ①警備班体制での支援依存ではなく、釜ヶ崎の労働者の自力の体制づくりと支援の仲間との原則的な共闘関係づくり
 - ②新たな労働者の獲得と、越冬期以降の春期闘争、飯場工作等への関係の継続性の実現
 - ③昨年問題をかかえた警備班の自炊-共同生活での基準設定と作風整理
 - ④夜警におけるセンター、公園2大拠点での貫徹、公園昼警のクリア
 - ⑤全体行動での実働勢力の役割
 - ⑥梅力レポ、夜警バトなど、機動性、創意性を高めること
- こうした課題が問われていた。

(B) 警備班の体制は、1期(12/25~28)、2期(12/29~1/3)、3期(1/4~7)、再編期(1/8~15)に従って、その任務に応じて編成した。警備部屋は、A(8人定員)、B(4人定員)、C(4人定員)の3部屋を使い、他に個人のドヤ等(日本橋での野宿の仲間も含めて)からの通いの仲間も参加した。Aを本部部屋で使い、班会議と共同炊事の部屋とした。警備班の諸活動は、次のような形で行なった。

- a) 「A」での毎日の班会議(Pm2時起床後~Pm4時の間、班全員出席の下で約1時間、毎日の反省会と意志統一の場を開いた)
- 班活動開始(Pm4時~釜日事務所、フトン小屋、公園等に結集し、諸作業を開始)
 - 夕食(Pm6時~1期では『勝利号』内で夕食弁当、2期以降「A」で自炊-共同炊事)
 - センターでのフトンしき、拠点防衛(Pm7:30シート張り、掃除~Pm8:00フトンしき、拠点防衛~Pm10:00医療バトの受皿体制)
 - 夜警会議(医療バト集約後のPm11:30~夜警編成、夜食弁当での食事)
 - 夜警任務(Am0:00~4:30前・後2交替編成、周辺等への夜警バト他)
 - 朝のフトンあげと早朝センター情宣(Am4:30~6:00)
 - 夜警集約と医療班引き継ぎ、撤収(Am6:00~)
 - 警備部屋での休息、就寝(Am6:30~Pm2:00)
 - 次の班全体会議へ

b) 公園夜警の場合

入バト貫徹後の公園炊き出し終了後、たき火4ヶ所を設営し、たき火の周囲でのフトンしき(Pm10:00~10:30位)

- 夜警会議(Pm10:30頃 センター夜警と調整しつつ、夜警編成)
- 夜警(Pm10:30~Am4:30 当該2ヶ所、地域及び支援で2ヶ所の割合で編成、1ヶ所のたき火の防衛に最低4名のスタッフを目安とした)
- 公園フトンあげ(Am4:30~5:00)
- 公園での朝情宣(『日刊えっとう』の配布等)の後、夜警集約、早出組との引き継ぎと撤収(Am6:00~)

c) 朝出の場合

夜警会議時点(前夜 Pm11:30頃)で撤収の後、早朝6時より朝出、活動開始~

昼出の場合

夜警前半終了時点(深夜2時)で撤収の後、昼12時より昼出、活動開始~

d) その他

当該部分で、警備班の集団体制には加わらないが ①公園での夜警 ②公園での昼警の両任務に個人宅(ドヤ等)から通い型で合流するスタッフも3名+αいた。

e) 警備班の班体制は、

活動家部分(4名+α、支援部分も集団体制に加われる部分は当該枠に編成した)、従来から経験のある労働者部分(3名+α)、新規の労働者部分(24才、26才、31才など青年労働者も合流した)などから構成され、経験者を班責任者にした3班(1班4名)、及び活動家での特別班の計4班編成を行なった。この班体制が1期の期間中にほぼ実現され、2期での集中任務、3期での支援減少局面でも任務の継続性を保障することにつながった。

(A) 警備班の越冬期間中の任務配置の現状は次の通りであった。

■夜警

	センター			公園			小計			朝出	昼出
	当該	支援	計	当該	支援	計	当該	支援	計		
12/25	13	15	28								
26	9	7	16								
27	12	7	19								
28	12	11	23								
29	6	6	12	6	10	16	12	16	28	2 (翻特)	
30	7	12	19	10	8	18	17	20	37	2 (翻特)	
31	9	9	18	9	6	15	18	15	33		
1/1	9	4	13	9	11	20	18	15	33		2
2	6	5	11	8	10	18	14	15	29	2	4
3	7	4	11	7	7	14	14	11	25	2	4
4	13	3	16							全体行動 (1/4対市)	
5	14	1	15								
6	9	1	10								3 (京都派遣)
7	15	5	20							全体行動 (1/7対フッカ)	
8										全体行動 (撤収作業)	

※公園夜警で協友会の責任者は当該編入

任務配置の点から見て、

- ①センター夜警の最低12名（前後6名編成で2交替、夜警バト(2~3名)、フトンあげ作業などを考慮して)
- ②公園夜警は16名必要だが、2期の最終局面(1/2,3)、3期の終盤(1/5,6)頃は相当厳しい事態に至った。この時期に全体行動(1/4対市、1/7ブッシュ)の任務が重なり、警備班にとって最も苦しい局面であった。更に、公園警備が2期中盤頃手薄となり問題を残している。(1/1地元ヤクザのトラブルの件、機動隊の挑発の件等の事態発生に対応できず。)

(二) センター、公園の2大拠点での青カン者の仲間の防衛について

上記の任務配置の実態報告の通り、昨年比べ、2大拠点での夜警任務は、より系統だてて遂行することができた。センター拠点では、12/25突入時点でシート張りを行ない寒風を防いだ。12/27には、丸太足場で本格的なシート張りを設置した。〈不況下の越冬斗争〉の凝縮として、

- ①定着青カン者層が激増し
- ②1000名規模での南港・臨泊収容策動もパンクし、センター、公園2大拠点での青カン者層も2期終盤には昨年を上回り、1/2には300名近くに達し
- ③3期には、現役の青カン者層が飯場動員の形で就労復帰が進んでいった。

- a) センター拠点では、シート設営内、フトン小屋内を含めて総勢130名位がフトンしきの限度であり、1期最終局面の12/27-28、3期撤収日の1/7と3度拠点はパンク状態に到った。特に12/27は雨天が重なり、12/28、1/7はセンター南側植え込み方面にフトンしきを延長し、急場をしのいだ。
- b) 公園拠点では、深夜の青カン者層のピークは1/2約150名であった。たき火4ヶ所でのフトンしきではスペースに限界があり、公園舞台上での自然発生的なフトンしきが行なわれ、冷たい石タタミ上での青カンで、深夜冷え込み時点での凍死の危険が常時つきまとっていた。
- c) 2大拠点の他に、センター周囲、JR新今宮~南海ガード下、四角公園などでの青カン者の防衛に1時間単位での夜警バトを編成し、前回12/27の仲間の凍死(『勝利号』の後方)の教訓とした。
- d) 医療バト集約(Pm11:30)からの引き継ぎとして、深夜の2大拠点での青カン者層の実態は次の通りであった。センターでは深夜2時頃ピークに達し、公園では深夜1時頃の見回り結果(シノギのたき火は含まず、4ヶ所のたき火、公園舞台上の仲間のみ)

	セ ン タ ー		医療バト	深夜	医療バト	深夜
	医療バト	深夜				
12/25	82名 (57)	→ 91名 (70)	…組 …組			
26	117 (75)	→ 129 (88)				
27	162 (88)	→ 169 (107)	Qパンク			
28	211 (107)	→ 不明 ()	Qパンク			
29	88 (70)	→ 112 ()			110名 (90)	→ 76名 ()
30	68 (61)	→ 92 ()			92 (115)	→ 不明 ()
31	39 (160)	→ 55 ()			115 (51)	→ 104 ()
1/1	53 (96)	→ 86 (105)			130 (140)	→ 122 ()
2	83 (97)	→ 105 (130)			215 (187)	→ 149 ()
3	71 (89)	→ 77 ()			145 (108)	→ 141 ()
4	116 (68)	→ 129 (76)				
5	89 (77)	→ 109 (85)				
6	81 (86)	→ 99 (113)				
7	148 (120)	→ 178 (130)	Qパンク			
8						

求人車両
(Am5:00台)

60台…組
(10)…組

82
(60)

120
(80)

106
(146)

夜警を通じた青カンの仲間の実態は、

- ①今回は定着層が80名台(12/25突入時と、前回の50名台を大きく上回って、越冬斗争が開始された事、
- ②2期全体で、センターに比べ倍する規模で三角公園での青カン層が定着し、公園本陣化の実態を反映(公園吹き出し体制の一層の強化も役割を果たしている)、
- ③3期での現役層の激減が、手配車両(飯場手配中心)の増大、飯場への流動に起因している点、
- ④しかし、定着青カン層が80名台で野垂れ死にを強いられている現状—こうした事を示している。

公園夜警では、フトンしき、フトンあげの作業は9割以上の仲間が自力で自らの寝床を用意し、自力でできる領域は自力で行なう点での大きな前進が見られた。

(6) 権力動向のレポ

権力の越冬警備は、越冬実の1期、2期、3期の体制に対応する形で警備シフトがしかれており、12/25突入時と2期の集中期に最大シフトとなる。警備班の権力レポの体制は層が薄く、この最大シフト局面でのみのレポ体制しか取れなかった。

機動隊3中隊(1中隊バス4台=100名×3)+ 隊1中隊(バス2台=50名)の計350名体制(Pm5:00~Pm10:00 人バト終了時点まで)を最大とした。

昨年4中隊の機動隊+1中隊の隊 総勢450~500名に比べ、約100名、1中隊分警備縮小の形と思われる。(ブッシュ警備+ママさん殺し事件の捜査が重なっていた) <自衛武装>の発展の見地から、この任務も系統的に遂行していかなければならない。

II 総括点

(4) 積極的な成果の点として、以下。

- ①警備の経験者部分が班責任者となり、新規の仲間も結集し、活動家部分も意識的に加わり、4版編成の体制が確立できたこと。それによって、各時期でのローテーション編成が可能となった。(2大拠点での夜警ローテ、早朝出及び昼出、人民バトへの合流と待機ローテ等)
- ②警備班の層が厚くなり、3期の支援撤収局面でもほぼ自力で夜警~フトンあげ、朝情宣の任務を遂行できる状態に近づいた。
- ③班全体会議を定時に毎日、全員出席の下で開く場ができて、班活動の反省、新規の仲間の受け皿、系統性ある任務と意志統一が実現された。
- ④夜警バト(深夜1時間に1度のサイクル)、車両レポ(3期での手配車両)、権力レポなど、班活動の幅、創意性がたかまったこと。三角公園、仏現寺公園のトイレ掃除も遂行し、夜警参加の条件整備も1歩進んだ。
- ⑤労働班体制に穴が空いている中、情宣班と共に、早朝センター情宣、机出し、全協ニュース販売等の朝の寄せ場拠点化に一定の前進が見られた。
- ⑥越冬斗争の全体行動(2期全体での人民バト、1/4対市デモ、1/7対ブッシュデモ、更に1/12山谷斗争)への実働勢力の一翼を担う事が出来た。
人バトでは、待機~フトンしき準備、山谷斗争では弁当100食分の手作り作業など、後方任務も同時に引き受ける形での実働勢力の役割を果たした。

(4) 問題点として、以下。

- ①班編成が12/25突入以降に事後的に行なわれ、責任者スタッフ、経験者部分の越冬前段期での計画設定ができなかった点。同様に1/9以降の警備班の再編期に経験者部分を含め、分散が一挙に進み、越冬以降での運動への関わり、継続性の点で問題を残している。従来の<越冬期間のみの急場の結集スタイル>を克服できていない点。
釜日の越冬の前段期、越冬以降の闘いの継続性、こうした点での弱さを反映し、越冬期間でのみの結果軸しかつづけていない現状を総括せねばならない。
- ②班活動が越冬スケジュールのこなしに後退し、全体行動への警備班の決起が、警備班労働者部分に徹夜型の通しの負担を強いる現状にある。班活動が越冬実全体としてどこにむかっているのか鮮明にさせ、センター、公園の2大拠点越冬をア

プレ地獄への結果対応=防衛戦に止どめず、よりアプレ地獄の根拠を撃つ攻勢的な越冬斗争の水路を切り開く課題が問われている。

③越冬実での警備班自炊問題の未整理について

警備班の自炊(弁当)問題を契機に、越冬期間中、炊事班担当者と不団結問題が生じ、以降越冬実総括の場でもこの問題が継続している。

1) 昨年、警備班の自炊体制の点で、活動家部分と労働者部分とを区別せず、活動家部分の財政負担を行なわなかった誤りについて総括し、今回、活動家部分については、弁当及び自炊での自費(弁当100円、自炊1人500円回収)は厳密に行なった。

2) 警備班の自炊は、今回、越冬前段で、釜日サイドでは、自炊財政は釜日負担として、他の警備班活動上の財政は越冬実負担として確認していた。

※警備班の領収書は、越冬実会計のメ切日と山谷斗争の時期とが重なり財政整理せず一括して越冬実会議にあげた。釜日サイドの確認に基づき早急に領収書関係の整理と財政区分を行なう予定。

3) 警備班の自炊体制は

(1) 公園越冬の体制が釜では'76年以降封じられた現状

(2) 越冬期間が12/25~1/7と長期(公園集中期は12/29~1/3)であり、公園炊き出しそのものに限界がある。

(3) 活動家部分、経験者部分ばかりでなく、新規の仲間の結集があり、食・住に窮する仲間の決起が必然

— こうした点から見て必要な体制と思われる。<自弁当体制>は、活動家、現役主義中心の問題のたて方だと考えられる。(活動家部分の自費負担は当然であるが)

4) 各班との連携上の問題

今回、事務局を通じた各班責任者会議が従来同様十分に機能しなかった。各班との連携も現場での必要に対応するレベルに止どまり、公園での炊き出し警備、昼警(1/1の事態を典型)、医療班との朝の引き継ぎなど問題を残している。情宣班とは、朝情宣任務が警備班任務とも重なるので、系統的に統一して展開ができた。(従来、情宣班は朝情宣から全く召喚していた)

以上

第22回釜崎越冬闘争パトロール班総括

越冬実パトロール班

1. はじめに

今越冬のパトロール活動も、越冬実メンバー、多くの支援の人たち、そして少数ではあっても例年になく目立つ形でパトロールに加わってくれた釜の仲間たちの団結でやりきった。活動に関わった多くの仲間たち、ごくろうさんです。

今越冬でも事前に(12/8)パトロール班会議を開き、準備・点検を確認し、22日には地区内コースの下見を行なった。

コースについては、今回も北まわり、南まわりを軸に毎日まわり、28,3,7日には、ピラ、弁当をもって周辺(日本橋方面、四天王寺境内、天王寺駅方面)も同時にまわった。(炊事班に感謝)。また、パトロールに先立つミーティング、終わった後の集約はパトロール班メンバーが輪番の形で全員が担当した。

2. 今越冬の野宿者の状況

今越冬は、秋口からの仕事の落ち込みを反映して、野宿者が多いことが予想されたが、事実この3年ほどの好況時期の野宿者数からみると、その増加が目だった。地区内だけの野宿者数の集計だけみても、釜の仕事の出具合いとしっかり連動している。

表に13回越冬時(1982)からの地区内野宿者の平均値をあげる。

[各越冬時地区内野宿者平均]

越冬回	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
年度	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
野宿者平均	301	440	229	313	343	296	229	209	198	288

13回・14回越冬時は、1974年以降2回にわたったアブレ地獄から景気が回復し、以後、1991年半ばまでの好況へと続くそのスタートの年である。13回時からの地区内の野宿者数をみると、景気が上向いて行くと同時に、逆に野宿者数は減っていく。とくに、18回時からの4年間の好況時には、野宿者数が少ないのが目だつ。しかし、91年秋口から仕事落ち込み、そのことによって今越冬では、野宿者数は目だつて増えている。

今回は、大阪市の越冬対策である臨時宿泊所の受付に並び、入所した仲間の数も例年になく多かった。

今後、景気の落ち込みが進むとともに、野宿を余儀なくされていく仲間の数もさらに多く

なる。府・市の行政にその対策—臨泊の拡充、高齢労働者の雇用保障等きっちり行なわせていかなければならない。

3. パトロール活動から

- ①集中期、越冬まつりとそれに続く人民パトロールが10時以降にくいこんだ日があった。
- ②支援の人からパトロール後の集約のとき、支援の方からも質問や意見をだし会う時間が欲しかったという声が聞かれた。
- ③野宿している仲間の状況
 - 秋口まで仕事をしている仲間が多かった。仕事がないから初めて野宿という人も多かった。
 - ケガ人が目だった。
- ④野宿している環境について
 - 越冬の2日前に2箇所です路上放火があり(北まわり)、ヤケドをして入院した仲間がいた。
 - 野宿している仲間がねぐらにしている路土の車が燃やされることもあった。仲間には別状はない。仕事がなく、むしゃくしゃして焼いたらしいが。
- ⑤パトロールでまわりながら
 - 参加者の中で私語が多かった。
 - 無理に寝ている人を連れていこうとすることもあった。本人が行きたくないのに。
 - 社会科見学のようなパトロール参加もみられた。が、釜への最初のとつかりとして大切にしていきたい。
 - パトロール参加するなかで人との出会いの機会もあり、よかった。
- ⑥越冬事前にパトロール班として学習会をやりたいと思った。また、越冬後には、であった人たちも含めて話し合いの場をもっていきたいと思う。



越冬まつりスケジュール

12月31日	夜	のど自まん大会	6:00~7:10
		若者ライブ	7:10~8:25
		生活サーカス団	
1月1日	昼	衣類放出 カンパ	9:00~昼2:00
		体をほぐそう 卓球大会	12:00~2:00
		釜ヶ崎ウォークラリー	12:00~2:30
		(ドッチボールはできず、パン食いも)	
	夜	若者ライブ	5:30
		けんぞう 仙石 他	
		ポップコーン	
		フーの会	
		生活サーカス団	8:25
1月2日	昼	もちつき大会	9:00
		だいなしコンサート	?
			2:00
	夜	ライブコンサート	6:00
		ふくろく	?
		生活サーカス団	8:00
1月3日	昼	衣類放出	10:00
		ペーパーベースボール	?
			12:00
			?
			3:00
	夜	ジョイントコンサート	5:30
		みずほ	
		新谷のリ子	
		新井英一	8:00

たまたまでないで92返そう

12月31日 夜 (AM10時から電気の配線、照明、カンパ、音響等の準備)

○年忘れのど自まん大会

91年も最後の年となった。故郷へ帰りたくても帰ることも出きず、寒風ふきすさぶ中、野宿かドヤぐらし。

そのウサをはらす歌声に、故郷への思いもたくしてみんな歌ってくれました。

※次の若者ライブとの打合せがまずく、セッティングに時間がかかりすぎた。

のど自まん終了まぎわの見きわめがむづかしく、ライブとの間が間のびしてしまった。

結果、終了時間が PM8:30 になり人パト、医療パトに迷惑をかけた。

1月1日 朝昼の部 衣類放出 体をほぐそう会

(トライアングル、ピンポン大会、ウォークラリー)

①衣類放出 は体をほぐそう会の運営上10時頃からという予定でいたが、炊事班と確認しないままだったので、炊事班の判断で8時頃から始めた。

※24時間体制をとる炊事班と連絡を密にすべき。

②トライアングル・パーク、ピンポン大会

最初あそびから始まった。次いで5人抜きメンバーを選出。6人のメンバーでリーグ戦を行ない、グランドチャンピオンを決める。

うでに自信のあるメンバーがそろい、二台の卓球台のまわりは、かたずをのんで見守っていた。

最初はおそびのつもりでも、やはり意地が出るもの。12時頃から始めて終わったのは2時頃だった。

メチャウまい二人は別格として、飛んだりねたりくやしがつたりするしぐさに爆笑につぐ爆笑だった。

※司会 実況中継をもっと効果的に入れればよかったのではないか。

リーグ戦10本勝負はちと長すぎた。トーナメントにしてチャンピオンを決め、チャンピオンや5人抜きメンバーに挑戦する形でみんなであそぶのはどうだろうか？

③ウォークラリー

釜ヶ崎といわれる一大寄せ場を自分の目で見て確認し、仲間の声を聞いて心の輪を広げようとウォークラリーを行なった。

各ポイントでのスタッフの多大な協力で行なわれたが、参加者は少数で盛り上りは小さかった。

しかし、参加者の感想は盛大で、釜ヶ崎の状況がよくわかったという評価があった。

※ドッチボール、パン食い競争は、三角公園内外でトラブル(ヤクザとのイザコザ)があり情報がみだれとび、警備に集中しなければならなかった。

1月1日 夜の部

各バンド共実力があつた。長いサオにゴミ袋、サケバックをぶらさげた三角公園旗が誕生した。

たき火にあたっている人、前で踊る人、おている人、みんな同じ釜のめしを食べる仲間だ。

腹をすかしてロックが聞けるか！ 寝るとこ心配してブルースが聞けるか！ 体のこと心配しておどれるか！ 医、食、住が越冬にあるから若者ライブはじける。

最後全員のアドリブがこちよかつた。

※三角公園でみんなをのせれば本物。“新人の登竜門”三角公園ライブといわれるようになればと叫ぶ声も上っている。

1月2日 もちつき大会 だいなしコンサート

釜ヶ崎の底力、パワーをつちかい、団結を深めようとモチつき大会を行なった。その成果は多大であり、仲間の団結心は強く打ち固めることができた。その前後における準備、片付け等に各班の協力があつたればこそ皆んなで団結もちをつくことができました。アリガトウ。

毎年恒例になつただいなしコンサート。

ロックのリズムでもちをつき、みんなの力でこねてまるめて、釜ヶ崎の旗開きだ。

1月2日 夜の部

越冬一週間前までは新谷のり子コンサートだったが、こちらの連絡ミスで1月3日に変更せざるを得ず迷惑をかけた。とりわけ、新谷さん、新井さん、ジョイントコンサートを譲承してもらつてありがとうございました。

出場してくれたふくろくは、新井英一さんの知り合いの方から紹介があり出場してくれました。ライブを中心にやつてる実力派。

生活サーカス団3連ちゃんでのりまくってくれてありがとう。

※若者ライブ— 総体として—

司会はずっとNさんが担当。本人ものりながら独特な司会でいっしょうけんめいやっている姿が良かったです。

越冬前段、12月23日に三角公園を借り切り、Kさん、Gさん、Sさん、Kさん等が雨の中ライブショーをやり、越冬にも参加してくれました。

徐々に定着しつつある越冬まつりです。

来年はマンネリにならないよう現在の関係を保ちつつ、新しいものにチャレンジしてゆける主体をきたえてゆかなければなりません。

1月3日 衣類放出 ベーバーベースボール大会

○ベーバーベースボール

三角公園の仲間が多く参加できるには、ヘタクソでも良い、あまり走らなくて良い、ケガしない野球。そしてみんなが見れるにはと考へて、飛ばないビニールバット、ボールでやることになった。

ビニール、ゴムボールはとびすぎ、スポンジボールは飛ばなすぎた。いろいろ試してみても、新聞紙をまるめてグアムテープでまいたボールが手ごろな飛びかたをし、つがみごこちも良く正解。

4試合消化した。ボールはあまり飛ばないし、外野は人ばかり、締まった試合展開で進んでいった。途中、名アナウンサーも飛び入りで参加して試合を盛り上げてくれた。

※実況放送風に演出し、審判にマイクを持たせルールを徹底させる。

時間をもう少し早くして、前のおそびを多くしたら良かった。

今回の三角公園ボールについては意見が二つに分れた。広いグラウンドでのび

のびと野球を楽しみたいという意見と、三角公園の仲間が参加し見物できるというもの、体の弱い、ヘタクソな人でも参加できる野球という意見だ。結果として三角公園で良かったと思う。

しかし、今まで参加していた強力メンバーがこないのが課題として残されている。

1月3日 夜の部 [5時15分~8時]

みずほさん、新谷さん、新井さんジョイントコンサート。

最初、三角公園代表で20年クラリネットを吹いているおじさんの演奏に始まり、みずほさんがしぶみのきいたブルースで魅了し、新谷さんがおどり歌い、憲法9条で考えさせ、新井さんでみんなを乗せた。

圧巻は三人そろつての「七つの子」「上を向いて歩こう」だった。

マイクの調子が悪くなるやすぐ切つて生で歌いだす。詰めかけてきた人とステージでうたい出す。

みずほさん、新谷さん、新井さん、本当にあつい夜をありがとう。

文化体育班を担った仲間の声

越冬闘争とは何か

これは1972~73年の越冬闘争で船本氏が定義づけた。

(a) 釜ヶ崎における冬とは、日本資本主義の構造的矛盾、社会的困窮の季節的表現であり、労働者階級としての悲惨、困窮、圧迫の総体が正月を軸にして集中するということであり、不要になった労働力商品が凍死、餓死、病死という表現でもって処理されてゆくことである。

(b) 「生きて奴等に仕返すぞ」という越冬のスローガンは、資本の苛酷なゲバルト搾取、収奪制度に対する釜ヶ崎労働者のギリギリの不退転のもつとも道理にかなった普遍的なスローガンであり、難民キャンプとも呼ぶべき炊き出しとテント村を基軸にすえ、出撃拠点とするところの越冬闘争こそ、生産手段を奪われ国家権力に包囲された釜ヶ崎労働者の“冬”に対する抵抗の現在の表現なのだ。

(c) (略) …釜共闘が、ただ単に青年労働者の利益のために闘うだけではなく、資本によって労働力商品として否定された人々…(略)…を引き受けようとしたこと、否、彼らが参加できる形で共に闘おうとしたこと、そして、敵と対決し、打ち勝つために衣食住総体の労働者階級の問題を解決しようとしたこと、これが越冬闘争の意味である。

20年経た今日でも色あせていないのは的確に現実をいいあてているからだと思う。そして今日の越冬闘争が、やっこの地平にたどりついてはいないだろうか。

24時間、三角公園を拠点にして闘うことの意味がここにある。しかし正確にいうならば、いまだこの地平には達してはいない。

前期、集中期、後期と分けざるを得ない状況であるし、夜集中型で、24時間拠点化ではない。

それに20年間も闘いつづけて、いまだに殺されてゆく仲間が昔と変わらないのは、運動する側の力不足以外の何ものでもない。

我々は、「冬に対する抵抗の現代的表現」から「敵と対決し打ち勝つため」の越冬闘争へ転換してゆかなくてはならない。

三角公園を出撃拠点とする人バト、拠点に常駐し胃ぶくろを満たす炊事班、夜昼朝、三角公園でイベントをやりぬく文化体育班、公園を防衛する警備班、たき木を集める資材班、これらの連携なくして拠点化はあり得ない。しかも、いのちを守る医療班、「だまって死ぬのではなく生きてやり返す」ための医療パトロール、これらすべてがそろふことによって、やっとかつての地平に戻ることができる。

20年経た今、我々は一步前進してゆかなければならない。

いまだ殺されてゆく仲間が昔と変っていない情けない現実から出発しなくてはならない。

1969～75年	花園公園（昔四条ヶ辻公園）テント村
1975～	テント村撤去
1976～83年	医療センターでの越冬
1984～現在	医療センター、三角公園拠点化越冬



91年度臨時宿泊所入所の闘いについて（総括案）

※資料は「日刊えっとう」「臨泊受け聞き取り調査票」

1 臨泊の位置づけについて

越冬闘争の基調が今回は出なかったため、越冬実としての明確な位置づけはない。ただし釜日労が個別に提案した基調（'91.12.14 支援連帯集会）の中には、以下のよう
にみることが出来る。

「今越冬闘争で我々は、何より、第一に10月釜暴動の暴動復権の地平を一層打ち固め、敵の暴動報復を打ち返し、'75～'76越冬（第6回）を反動期に、以降16年の長くに続く敵の越冬封殺の壁（越冬公園の拠点閉鎖と南港・臨泊隔離体制）を打ち砕くこと」（越冬闘争の方針と課題）。

しかし、方針には、具体的にどんな行動をするかは明示されていない。

2 臨泊の闘いの実際

臨泊の闘いについては、「日刊えっとう」の以下の号でとりあげている。その紹介によって、闘いの実際の輪郭はあきらかに出来る。

① 全員入所の呼びかけ

「国や市・府の行政は、この正月のアブレ期に人里はなれた南港に臨時宿泊所を設けてお茶をにごしている。多数の体育会系の学生アルバイトを使い、機動隊を動員し、ワシら日雇を犯罪者のごとく収容する行政。ワシら日雇を使うだけ使いボロもうけしている大手建設独占や国、地方自治体がアブレの責任をとるのは、当然のことだ。ワシら日雇を助けてやっていると言わんばかりの行政のやり方を絶対に許すわけにはいかない」（創刊号 '91.12.24）

「野宿を余儀なくされる全ての仲間が臨時宿泊所に入り、正月の仕事が全くない時期をのりこえていこう。……大手独占資本や国、地方自治体が仕事のない時期に最低限の生活保障を行うのは当然のことだ。なんだかんだと理由をこじつけ臨泊を締め出すことを絶対に許さず闘い抜こう。……有刺鉄線でとり囲む保安処分施設としての役割をこなごなに打ち砕く臨泊闘争をやりぬこう」（第4号 '91.12.27）

「私たち釜ヶ崎越冬闘争実行委員会は、大阪市に対し、労働者に対する血の通った臨時宿泊所対策を行わせるため闘っています。現状では残念ながら南港の地へ遠く引き離され、また、入所数も年々切り縮められています。しかしいずれは、釜の近くに希望者全員が入れるような宿泊施設を作らせるまで闘いは続けられていかなければなり

ません。今は、労働者の当然の権利として、どんどん臨泊に入り、自らの命を冬地獄から守っていかう。臨時宿泊所受付は29・30日、9時～午後2時 市立更生相談所で」（91.12.28 医療パトでまかれたピラより）

「あすから臨泊の受け付けが始まるぞ。希望者全員入所にむけて闘おう」として、市立更生相談所の略図と29・30日の受付時間（9:00-2:00pm）を紹介。（第5号 '91.12.28）

「臨泊闘争を闘いぬくぞ！ 市は希望者全員入所させろ！ 臨泊の収容施設化を許さんぞ！ ……出入りする時も持物検査をする臨泊はオレたちが正月らしい暮しを過せる場所ではない。しかし、…まず臨泊に入ることが先決だ。大阪市は毎年1300人入れる臨時宿泊所を設けながら、入所を希望する仲間になんだかんだと難くせをつけて足切りをしてくる。そもそもそんな権利がやつらにあるのか。……」（第6号 '91.12.29）

「不当却下糾弾！ 殺人行政糾弾！ 臨泊希望者全員入所を！」との見出しで29日の受け付けの不当性を批判すると共に、30日の受け付け「今日30日も臨泊受け付けあるぞ！」と宣伝。（第7号 '91.12.30）

② 臨泊監視団からの報告

「臨泊は保安施設か！ 南港の臨時宿泊所はバス停に歩いて10分。そしてニュートラムに乗って又地下鉄に乗らなければ釜にも来れない近くて遠いところにあった。…一回りはトタンのへいでおこまれていて中が全く見えない形になっている。何か見られたくない、見せたくないものがあるかのような。…メシは飯場よりマシだが米が古いのかムツとするようなにおいがする。メシ以外にみかんが出ただけ。タバコはわかばが2日に1箱か？ 仲間は一様に去年よりズッと人が多いと感想を述べた。そして物を買に行くの30分も歩かないと行けないことに不満をもらしていた」

（第9号 1992.1.1）

「南港にある殺風景な施設は、まさしく収容所そのものでした。…大阪市に対して、無条件・全員入所や施設面の改善を求める一方、臨泊がどうしてあるのかという根本問題への現実的な取り組みも必要ではないだろうか。ちなみに一労働者の『釜共は春闘で賃上げを勝ち取っているが、ドヤ代の問題もなんとかすべきではないか』の声に示されているようにも思えます」（第10号 '92.1.2）

③ 臨泊内での生活について

この点については、医療班が入所者から聞きとりを行い、医療班報告として出されているので、それを参照されたい（P. ）。

3 大阪市に対する抗議（臨泊闘争）

越冬突は1992年1月4日の大阪市への抗議闘争の際に、臨泊に関し以下の点について、大阪市長、大阪市民生局長に抗議文を提出した。

1. 釜ヶ崎内に臨時宿泊所を作れ。
2. 臨泊への入所希望者を全員入れろ。
3. 通年的な無料宿泊所を作れ

これらの根拠となるようなことが「日刊えっとう」に紹介されている。

「今回、南港臨泊1,000人を上まわる1276人が入所を希望した。これに対し市は、136人の仲間を冷酷にも却下し、寒空の下にたたき出した。却下の内容たるや、47才の12月も仕事が少なくアオカンしながら仕事についていた仲間に『まだ若い。体が健康である』と却下したのである。これは、体の丈夫な日雇はアオカンをして体をボロボロにしてから市更相に來いと言っているのだ」（「日刊えっとう」第12号 '92.1.4）

4 臨泊受け付け聞き取り調査

入所希望労働者に対する不当な却下を許さないために、ここ数年、聞き取り調査を行って来た。この監視行動は、昨年あたりから徐々に効果をあげている。29日、30日の入所希望者と入所者は以下の通り。

	希望者	入所者	他の窓口へ	却下	入所者で聞き取り協力者
29日	737人	640人	24人	73人	590人
30日	340人	301人	6人	33人	285人
計	1077人	941人	30人	106人	875人

なお、29日は市更相で生活保護相談が79人、生活相談が30人。30日には、同じく市更相で生活保護52人、生活相談36人があった。

受け付け直後の聞き取り調査には入所できた労働者の実に93%（注：不完全な回答者を入れると94%となる）が協力してくれた（29日92%、30日94%）。

（聞き取り事項は→「臨泊受け付け聞き取り調査票」を参照）

① 聞き取りで明らかになったこと

聞き取りの結果は、表1～4のようにまとめることが出来る。まとめから次のことが言える。

- (1) 相談者は第1日目に集中する。
- (2) 入所できた労働者のうち最高年者は80歳、最小年者24歳である。

- (3)入所できた者は50代が最も多く362人(41.4%)だが、続いて60代の248人(28.3%)、40代の192人(21.9%)となる。
- (4)年齢の集中は、50代では全般、60代では前半(60~63才)に、40代では後半(45~49才)に多い。70代は前半(70~73才)に集中している。
- (5)入所者のほとんどは白手帳を持たない(全体の78%が持たない)。しかし、白手帳をもつ178人では、50代で74人(20.0%)、60代で56人(22.6%)、40代で42人(21.9%)である。
- (6)期間は、1月6日までが664人で全体の75.9%をしめている。ただ手帳をもっている人でも、3日ですたり6日までのもいてバラバラである。
- (7)入所回数は、意外にも503人(57.5%)が1回目、それにつき2回目が243人(27.8%)で、3回~10回までは110人(12.6%)にすぎない。(不明19人)これは、大阪市の面接者の「来年はくるな」との一言や、宿泊所が「収容施設化」していることへの労働者の反発の結果とすることが出来ないか。
- (8)なお、臨時宿泊所受付中の29日夜には313人、30日夜には259人の野宿労働者がいたのは何を物語るか。

②却下された労働者の事情

却下された労働者の事情は、表5に整理した通りである。却下理由は、2日間を通じ「年が若い」が34人と最も多く、「酒を飲んでいる」28人がそれに続く。29日却下されたが聞き取りに協力してくれた52人については次のことが言える。

- (1)却下された人を年代別に分類すれば、20代-2人、30代-7人、40代-23人、50代-13人、60代-5人、70代-2人。ここで問題なのは、60代、70代の計7人である。
- (2)「若い」と却下された人は、20代-1人、30代-6人、40代-10人、50代-1人である。40代後半から50代の人々を「若い」として却下するのは、釜ヶ崎労働者の生活実態を知らない結果である。
- (3)「認定がある」との理由で却下したことも、決して釜ヶ崎の現実に合った判断とは言えない。

5 課題

聞き取り、実態調査(監視団報告)などに基づくとき、次の点が課題といえないか。生命を守る闘いとして、入所希望者の全員入所をかちとることは先決だが、「収容施設化」した臨時宿泊所の改善とともに、臨時宿泊所に対する越冬期の位置づけが必要である。また、労働者の要求するドヤ代への取り組みも不可欠である。

臨泊受け聞き取り調査票

A 入所が決まった人

- 年令は () 才
- 白手帖(日雇労働被保険者手帳)は 有 無
- 入所はいつまで () 日まで
- 臨泊入所は何回目ですか 今度で() 回目
- できたら名前を ()

B 却下された人

〔却下理由〕 印 印

酒をのんでいる		働いているから	
年が若い() 才		働かない人間はダメ	
金をもっているはずだ		ドヤ・アパートがある	
金をもっているから		親せき・友人がいる	
白手帳をもち認定がある		ギャンブルをしている	
白手帳をもっていない		自己退院・退寮をした	
去年入ったから		医療センターへ行け	

その他詳しく

☆できるだけ年令及び白手帳の有無も聞いて下さい。

- 年 令 () 才
- 白手帳 有 無

第22回越冬実

1991年12月29日～30日

大阪市臨泊入所者アンケート

875人

※手帖の○数字は不明者数

12月	人数	手帖		期間					入所回数										
		有	無	6	5	4	3	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	種
29日	590	130	457 ③	464	75	23	28		327	169	55	11	10	1		2		1	14
30日	285	48	230 ⑦	200	47	16	19	3	176	74	23	1	2	2	1			1	5
計	875	178	687 ⑩	664	122	39	47	3	503	243	78	12	12	3	1	2	0	2	19

【注】1 入所できてアンケートにこたえてくれた人は、12月29日・30日で合計884人。
ただし、年金、期間が全く不明のものは統計(集計)にあたって除外した。その数は
884人-875人=9人

【注】2 期間の「6」は「1月6日まで」を意味する。以下同じ。

875人

臨泊に入所できた人の年代別集計 (20～80代)

※手帖の○数字は不明者数

年齢	人数	手帖		期間					入所回数										
		有	無	6	5	4	3	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	種
20代	5		5	4	1				5										
30代	34	2	32	21	7	2	4		28	4	1								1
40代	192	42	149 ①	128	30	16	15	3	129	41	12	1	3		1	1			4
50代	362	74	281 ⑦	270	60	15	17		199	105	37	5	3	1				1	11
60代	248	56	190 ②	211	20	6	11		126	81	26	5	3	2		1		1	3
70代	33	4	29	29	4				15	12	2	1	3						
80代	1		1	1					1										
計	875	178	687 ⑩	664	122	39	47	3	503	243	78	12	12	3	1	2	0	2	19

590人

臨泊に入所できた人 ('91.12.29 年代別)

※手帖の○数字は不明者数

年齢	人数	手帖		期間					入所回数										
		有	無	6	5	4	3	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	種
20代	2		2	1	1				2										
30代	22	1	21	14	4	2	2		18	2	1								1
40代	107	26	81	75	15	8	9		72	25	5		2			1			2
50代	252	58	191 ③	193	36	10	13		140	70	25	5	3	1					8
60代	181	43	138	157	17	3	4		84	62	22	5	3			1		1	3
70代	25	2	23	23	2				10	10	2	1	2						
80代	1		1	1					1										
計	590	130	457 ③	464	75	23	28	0	327	169	55	11	10	1	0	2	0	1	14

285人

臨泊に入所できた人 ('91.12.30 年代別)

※手帖の○数字は不明者数

年齢	人数	手帖		期間					入所回数										
		有	無	6	5	4	3	種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	種
20代	3		3	3					3										
30代	12	1	11	7	3		2		10	2									
40代	85	16	68 ①	53	15	8	6	3	57	16	7	1	1		1				
50代	110	16	90 ④	77	24	5	4		59	35	12								1
60代	67	13	52 ②	54	3	3	7		42	19	4			2					
70代	8	2	6	6	2				5	2		1							
80代																			
計	285	48	230 ⑦	200	47	16	19	3	176	74	23	1	2	2	1	0	0	1	

第22回釜ヶ崎越冬医療班総括 越冬実 医療班

B 却下された人 12/29 ○却下 最高70才 最低24才

[却下理由] (数字は人数)

酒をのんでいる	10	働いているから	
年が若い(才)	25	働らない人間はダメ	
金をもっているはずだ	3	ドヤ・アパートがある	
金をもっているから	1	親せき・友人がいる	1
白手帳をもち認定がある	3	ギャンブルをしている	1
白手帳をもっていない	0	自己退院・退寮をした	1
去年入ったから	4	医療センターへ行け	6

その他 10

B 却下された人 12/30 却下一覧

[却下理由] (数字は人数)

酒をのんでいる	18	働いているから	2
年が若い(才)	9	働かない人間はダメ	1
金をもっているはずだ	3	ドヤ・アパートがある	2
金をもっているから	2	親せき・友人がいる	4
白手帳をもち認定がある	1	ギャンブルをしている	—
白手帳をもっていない	1	自己退院・退寮をした	1
去年入ったから	—	医療センターへ行け	3

- 1 去年12月26日から本年1月8日まで13日間にわたり、机出しの医療相談をやりきった(ただし1月5日は休み)。その内容は、午前8時半からミーティング、そして9時から机出し医療相談を行い、医療センター側のイヤがらせ(時間制限等)があつたが受け付け時間いっぱいの12時前までやった。(ただし、正月3ヶ日と1月6日から8日までは9時からミーティング。9時半からの医療相談でした)
- 2 ミーティングのことですが、医療センター前のバスに集合して当日の責任者を明確にし、初めて参加した人には「医療相談手順」を配布して、当日の手順を説明した。最初はなかなか手順が飲み込めなくて苦労した参加者も、慣れてくるうち通年的に関わりたいと言ってくれるようになった。
- 3 酒気帯び相談者については、むげに追い返さないことはもちろんだが、1階(机出しの場所)と5階(医療センター診療所)では温度差が大きいので酔いのまわりが早く、結果、寝込んでしまったり、他の相談者や医療センター側とトラブルを起こすことがあり、また、医療従事者とのよりよい医療環境も築きにくい(これは医療センター側に問題があることももちろんだが)ため、医療センター前のバス内で酔いをさますなどの配慮をする他、できるだけ話を聞くようにした。しかし一方で、相談者が自分で病気をなおす気をもてるようにするため、ある程度の自助努力を促すようにもつていくことも必要だと思う。
- 4 市更相での不当却下については、相談者の入院、入寮希望等が不当に却下された場合に、断固撤回させるために再接触するものですが、市更相側は「(相談者が)何度も自己退院や自己退寮を繰り返しているからダメ」とか「(医療センターからの)紹介状の診察結果が『入院』になっていないからダメ」といった理由でハネようとする。しかし、「自己退院」「自己退寮」者のなかには、悪質病院に耐えかねて退院した人や、事実と反する退寮理由をつきつけられた人などが多く、他にも腰痛や内臓病、精神疾患といった内部障害や、目・耳・手・足等が不自由な外部疾患を抱えた人も、少しでも働けそうに見えたら無理難題を言ってハネてしまうなど、悪質な却下もある。こういった人たちが、市更相のいうように仕事を探しに行っても、そこでもハネられるか、さらに病気を悪化させることは自明であり、このような不当な却下を許さないための闘いをやり抜いた。
- 5 相談は、福祉・労災・生活相談など多岐にわたり、外国人労働者も2名来た。外登証を持っている人やアパートに住んでいる人は西成福祉扱いとなり、同行しなければならないときもあった。参加者は一日平均9.5人あつたが、相談そのものは複雑で充分こなしきれない部分もあつた。通年的に関われるメンバーの拡充が望まれる。
- 6 上記のように、ある程度の慣れが必要なのに、中途参加のメンバーに説明の時間がさかれる等、混乱があつた。越冬期間中、最後のほうではそういったことがなくなつたが、医療班として、事前にそういった説明の場をもつ必要があつた。

机出参加者、相談別内訳、病院面会 (参加者、行先、患者数)

月/日	曜	天候	相談別内訳				面会者	面会先 (患者数)	備考
			シノギ	労災	賃金未払	交通事故			
12・26	木	雨	2名	1名				入院者の荷物引出	
27	金	"				8名	富永外科(2名) 大中(2名)、山一(3名)		
28	土	雨のり				1名	4 大中(2)、山一(1)	入院者3名の荷物引出	
29	日	くもり			1名				
30	月	晴	2	1					
31	火	くもり	1	3	1			海道(出)に調査	
1・1	水	晴	1	1				三角公園で呼掛	
2	木	"	4			1	10 放出(1)、大中(1) 杏林(X)、山一(4)	"	
3	金	"	2	1			4 豊川(2)、相原二(1)	"	
4	土	"		1			3 大中(1)、杏林(X)	海道(出)調査、臨泊聴取り、ドヤ代取戻	
5	日	"	休			み	4 貝塚中央(X)、貝塚サトルM(1)、廣崎(X)、神田(1)		
6	月	雨	2	1				センターで呼掛	
7	火	くもり	3	1		3		臨泊入所者聴取り	
8	水	晴	2					"	
計	13日		25名 6.3%	11名 2.8%	2名 0.5%	5名 1.3%	33名	11病院(17回)・(22名)	
			4.3名(3.3%/日) 10.8%						

今越冬の医療相談をとおして感じたことは、入院者が少ない、重症者が少ないということがある。これは、高令化と共に、急激な仕事量の落ち込みによって多くの仲間が野垂れ死に追い込まれた結果であり、決して医療等の改善によるものではない！また東日本からの仲間も多く、全国的な不況のために、若い20代の人も目立つようになってきた。外国人出稼ぎ労働者の相談もあった。

病状では、「上気道炎」というのが割りと多く、これはプラスチック製品などを燃やしたタキ火でのどに炎症をおこしているものらしく、他に2、3年内に入院歴がある人も目立った。

月/日	曜	相談者	受診者	更相行	入院	入寮	法外※	臨泊	却下	再面接	備考
12 26	木	28	2	12	2	4	1		5		出稼ぎ(韓国より)
27	金	23	16	15	1	5	5		4	2	
28	土	39	23	18	2	4	9		3	7	出稼ぎ(米国より)
29	日	29	24	15	4	1		10			
30	月	35	26	16	3	1		12			
31	火	47	38	28	1	2		21	2		交通費 2名
1 1	水	20	18		1						
2	木	33	26		2						
3	金	22	19								
4	土	24	22	14	3	4	5		1	1	交通費 1名
5	日										
6	月	17	14	12	2	4	3		3	3	救急 1名
7	火	44	32	16			3		1	3	救急 1名 / 西・福 1名
8	水	19	12	7	2	4			1	3	
計		397	290	153	29	35	26	43	20	19	交通費 3名 救急 2名 西成福祉 1名
割合			73%	52.8%	19.1%	23.0%	17.1%	28.3%	13.1%	12.5%	※法外援助=福祉事務所を過ぎなくともよい措置(自強館への単泊や、市更相のIPにある「生活相談室」での現金貸付等)

42.1%

91 ~ 92 番ケの救急搬送記録

月/日	時刻	場所	車体No	年齢	搬送先	入院 外来	備考
12/25	11:29	医療センター前	375	57	山一	入	
26	10:54	"	"	26	大中	外	シノギ被害
3	11:10	"	369	50	"	×	診察途中トンコ
4	13:02	"	375	"	山一	入	賃金未払い被害
5	19:51	第2市住南側	369	"	大中	入	ひき逃げ被害
6	20:10	"	375	55	"	入	シノギ被害
7	27 5:46	医セン南側	369	"	杏林	入	富永、転医入院
8	28 10:31	医セン前	"	42	山一	外	
9	" : "	"	"	47	"	入	
10	29 5:55	"	"	53	杏林	外	
11	6:30	"	"	"	"	"	
12	15:35	市更相北側	375	"	"	"	重体
13	22:26	三角公園	369	56	大中	"	
14	22:35	"	375	52	"	"	
15	30 13:39	センター北東側	375	52	"	入	賃金未払い 1/4
16	23:08	医セン前	"	"	"	入	翌日金を取りに行きそのまま
17	23:40	"	369	"	"	外	
18	31 11:35	"	"	49	山一	入	
19	19:30	三角公園	375	49	"	外	
20	1/2	医セン前	"	68	杏林	"	重体
21	4 13:06	"	369	62	山一	入	
22	23:45	センター北	"	53	大中	"	
23	5 19:35	「スバル」前	375	"	"	外	
24	6 10:57	医セン前	369	26	山一	入	
25	"	"	"	43	"	入	添乗、翌1/7自己退院
26	"	"	375	"	"	"	
27	7	市更相前	369	43	杏林	外	
28	8	医セン前	374	"	大中	×	診察途中トンコ

総搬送記録 28件
実搬送者 26名

山本第一病院 9名 (入院7名、内1名翌日トンコ)
大和中央 " 12名 (" 4名、診察拒否2名)
杏林記念 " 7名 (" 2名、内1名翌日トンコ)

入院 13名 (翌日トンコ 2名)
外来 " "
診察拒否 2名

シノギ被害 2名
賃金未払い 2名
ひき逃げ 1名
飲酒転倒 7名
ケンカ
急性アルコール中毒 2名

内科系 15名
外科系 11名

※重症であり、野宿になることが判っている患者を、いとも簡単に外来扱いしている。特に12番の人は、滋賀県立病院で「狭心症」と診断されて追いかえされた人である。また20番の人も下血していたのに追いかえされている。救急病院が野垂れ死にの原因を作っている。

1. 臨泊は何日いたか 12/29~1/4
2. 食事 最低。市の税金でやっているのか。あれはひどい。
3. 入浴 わいていず。中止の時もあった。
4. ベッド 窮屈。眠れない。へたばった。もっとねむれるようにせないかん。
5. 娯楽室 10棟のうち娯楽室のある棟は8棟。1階は板間にゴザをひいてあるだけ。2階は畳。市がネコババしていると思う。2階建が3棟(5、6、19棟)しかない。もっと2階建を増やすべき。府はカネを持っているのにケチっている。
6. ガードマン 学生のアルバイトが夜中にストーブの油を入れるだけ。カメラマンが写真をとっていた。機動隊は見当らず。
7. 入所時のいやがらせ 荷物検査をていねいにやる。信用できんという感じ。丁寧に言っていたが、腹の中は「イヤなら出ていけ」という感じ。
8. 強制退所 部屋を代わった人はいた。厳格にしていたのになぜ、と思った。
9. 暖房 ストーブのみ。角でストーブから離れると寒い。イケニエにされている。
10. タバコ 2日に1箱。少ない。エコーは130円。マイルドセブンの分が予算化されていたなら220円-130円=90円の市のもうけ。メシ食わしてもらってるんやから仕方ない、ということで出る人もいる。
11. 情報(新聞、TV) 見なかった。本がない。勉強したい人もいると思う。
12. 病気になった時 医者1人、看護婦2人。あさ5時頃に行って昼間で待てと言われる。診察時間が13:00とのこと。病人放ったらかしてメシだけ食わして良いのか。腹立つ。
13. 起床、消灯その他 朝メシは7:00。消灯は21:00。自動販売機はタバコとジュース。(1/1は0時まで) 8棟の2階は夜遅くまでいられる。臨泊を利用してカネもうけしてるかどうか調べてくれ。

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 12・31~1/4 2. ええ加減。臨泊を利用するのに「2回目からカネを払う」といわれる。飯場よりマシ。 3. ええ加減。菜湯があれば。 4. 寝づらい。畳が良い。 5. せまい。人が多い。 6. 機動隊はみていない。 7. 物を壊すな、とうるさい。 8. 飲酒していた人が1人。 9. 臨泊としてはまあまあ。 10. タバコは吸わない。 11. 読めた。 12. 菜のみ。血圧を測る。1/7の交通事故の後遺症で。 13. アンケートが配られていた。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 12/31~1/4 2. まあまあ。 3. 毎日ゆっくり入れる。何回でもOK。13:00~20:00までは入れる。 4. フutonはきれいだが慣れていないので寝づらい。 5. TV室(ビデオ)、将棋室、囲碁 6. 学生が夜回りする。機動隊見えず。 7. 手荷物を調べる。ナイフを持っていた人は預ける。 8. 自分の入った棟ではない。 9. 1棟にストーブ3つ。灯油が切れると夜中でも入れ替える 10. 1日と3日にエコーが支給された。 11. 読売新聞 12. 毎日、診てもらえる。 13. 1日は23:00までで消灯。それ以外は22:00まで。起床は6:00。公衆電話が1台。自由に使える。 |
|--|--|

人民パトロール総括

I 人パトの意義と斗争経過

(イ)現在のワッショイデモスタイルでの人民パトは、'84~85越冬斗争(第15回)を転期とする。越冬斗争への敵の封鎖の壁を大胆に打ち破る斗いとして三角公園実力占拠—越冬本陣拠点化と結びつけて開始された。以降この7年間、人民パトには独自の斗争史、斗いの蓄積とその地平があるが、その意義を再確認すれば次のように整理されるだろう。

- ① 敵の越冬斗争封鎖の壁を大衆的に突破していく三角公園実力占拠の斗いと結びついた越冬斗争の全体的な柱のひとつのこと。
- ② 三角公園本陣化を条件に、日雇殺し—野垂れ死にの敵の冬場の攻撃に労働者自らが大衆的に反撃していく斗争決起の環を担っていること。
- ③ 釜地区内での銀座通り、手帖金融屋、シノギの屋台等の密集地帯などへの制圧行動を展開し、労働者の大衆的な反撃力量を不断に形成すること。
- ④ 梅田、ナンバなど典型的な市街地=街頭での大胆な制圧戦を斗い、市内全域で分散、孤立、差別襲撃を強いられる青カン者の先輩達を防衛し、越冬斗争の斗争圏の全市街地的拡大、社会的繋がりを獲得すること。
- ⑤ 敵の差別分断と斗い、地域(寄せ場)で生活する女性、子供達、越冬斗争の仲間達と共に、共同斗争布陣をより強固に築きあげる斗争環として、人民パトを全体的な創意で獲得すること。

(ロ)こうした人民パトの地平を力に、今越冬斗争の集中期(12/29~1/3)6日間毎晩、三角公園を出発拠点に約150~300名の人民パト参加勢力を中心に、次のような展開で人民パトが斗われた。

- 12/29 三角公園での夕方(pm7:30~8:30)殺人行政科弾集会后、釜地区内での人パトを斗う。総勢150名位、3梯団編成で、銀座通り~西成署前の制圧戦を重点に、pm8:30~9:15位の展開時間。
- 12/30 三角公園での夕方集会(pm7:00~7:30)の後、2梯団編成で、天王寺コース(天王寺地下~天王寺JR中央コンコースを重点)の展開。山王町の安アパート街(韓国からの出稼ぎ多)を念頭に、行きコースは〇〇線両側を設定。ママさん殺し事件、天王寺捜査シフトと人民パトへの権力の警備シフトが重複していた。
- 12/31 公園でのライブ終了(pm8:30)の後、街頭制圧の第一弾として、ナンバコースで展開。約200名の人民パト参加勢力で、戎橋広場でのウズ巻き、ワッショイデモ等での制圧戦展開を中心に、権力の制動をはねかえし貫徹。市民ピラの配布、日刊『えっとう』での青カン者の先輩達へのゲキレイなど。人民パト参加者全体で取り組む。
- 1/1 公園でのライブ終了(pm8:30)の後、当初予定の梅田コースを急きよ変更し、日本橋~通天閣コースで展開。市街地としての性格が多く、人通りがほぼ皆

無の状態。時間的にも青カン者の姿がほとんど見えない状態。新世界一帯での制圧行動の不発(指揮の混乱)などで消耗戦の展開となった。飛田商店街での帰還で展開領域拡大にはつながったが、公園帰還が pm10:00を大きく過ぎ、総じて無為に流れる問題を残した。

- 1/2 公園でのライブ終了(pm8:00)の後、街頭制圧の第二弾として、梅田コースで展開。約250名の人民パト参加勢力、2梯団編成で梅田地下、阪急街、JR大阪駅コンコースの制圧行動を貫徹。阪急街では氣勢は大きく高揚したが、JR大阪駅中央コンコースでは2梯団の体制がくずれ、制圧展開が不十分となった。市民ピラも全く不足しており、制圧行動の大胆な展開の機会を見のがす結果となった。
- 1/3 公園でのジョイントコンサート終了(pm8:00)の後、明朝対市抗議行動の準備も念頭に、釜地区内で人パトを展開。人民パト参加勢力は約300名位と最大。銀座通り~加納第一ビル、西成市民館へと展開。寄せ場でのヤクザ支配の典型のひとつである加納第一ビルには仲間の怒りが集中し、ビル玄関口での物理的弾勁行動の一件が仲間の間から起きている。(権力の現場検証等の弾圧介入策動が直後にあり)

II 総括点

(イ)上記の斗争経過を通じ、その成果の点として、次の諸点が確認される。

- ① 7年間蓄積してきた人民パトの地平に立ち、三角公園本陣化と共に、毎晩150~300名の仲間が人民パトに大衆的に決起し、越冬斗争の柱のひとつの意義を占めたこと。人民パト出発時、公園内の4ヶ所のたき火がほぼ空っぽになる程、野宿を強いられる仲間の大半が人民パトに決起している点。
- ② 権力の介入、弾圧を許さず、とりわけ私服の人民パト隊列への潜入を許さず、銀座通りでの制圧戦貫徹を中心に、我々の主導性を保持しつつ制圧行動が斗えたこと。
- ③ 地域の女性、子供たちも人民パトに広範に参加し、共に闘った。
- ④ ナンバ、梅田を重点に市街地=街頭制圧を引き続いて貫徹し、日雇の現役層、地区内の青カン層、市内全域に分散を強いられる青カン層の先輩達の階層分断を克えた越冬団結を、人民パトを水路に前進させたこと。人民パト参加の仲間の手で、積極的にピラ配布などが行われている。
- ⑤ 加納第一ビル、飛田商店街、三角公園バクチ場密集地等への制圧行動の貫徹を通じ、10月暴動で浮き彫りとなっている権力—ヤクザ一体の寄せ場の支配構造への大衆的な反撃布陣形成の一步となったこと。

(ロ)以上の成果を確認すると同時に、そこでの問題点を以下総括していかねばならない。

- ① 人民パトの斗いが固定化、スケジュール化の事態へと後退している点。
'84~85越冬斗争当初の局面では、人民パトが越冬斗争での大きな攻防戦の位置を占めていたが、公園本陣化の布陣が一定定着し、梅田人民パト弾圧('86~87)以降、人民パトが一定既成事実の成果として獲得されている現在、人民パトの位置が攻防戦の柱としては後景化が見られること。

